

## 夏の沢旅 谷川編①～仙ノ倉谷西ゼンはスラブの美渓～

【報告者】H田

【日時】2019年8月10日

【天候】くもり

【参加者】H田 ほか 会員外2名（リーダー、Fさん）

### 《コースタイム》

6:04 スタート地点→6:24 群大ヒュッテ→平標新道→入渓地点→東ゼン出合い→第一スラブ  
→第二スラブ→笹藪→登山道→13:53 スタート地点

### 《 報 告 》

今日から3日間、新潟県の湯沢（公共交通機関利用なら土樽駅）をベースに谷川連峰の魚沼川水系の沢を楽しむ。谷川連峰は、沢が多いことで知られるエリア。沢登りで訪れるのは初めてなので、ワクワクだ。

初日に選んだ「西ゼン」は、花の百名山のひとつ、平標山（たいらっぴょうやま）に詰め上げることもできる、人気の沢とのこと。駐車場に着くと、既に1台、名古屋ナンバーの車が停まっていた。

駐車地点のゲートから40分ほど砂利道を歩くと、平標新道という登山道の入口に出る。少し鬱蒼とした登山道を小1時間ほど歩いて入渓地点に着いた。

入渓地点から先、視界は大きく開けている。水量はそれほど多くない。ゴロを少し歩くと、東ゼンの出合いに着いた。東ゼンと西ゼンは、共に人気の沢らしく、東ゼンに行くと2段60mの大滝登りが楽しめるそうだ。流量は同じくらいだが、西ゼンの方が川幅は広い。

西ゼンのスタートは、釜付きのスラブ滝。いきなり傾斜がきつめのスラブで戸惑うが、グローブとラバーソールのフリクションを頼りに、水流から少し離れて、乾いた比較的傾斜が緩いところを選んで登る。濡れた岩場は滑りやすく、油断して足を乗せると本当にズルズルと滑ってしまう。普段と違う緊張感。昨年、日向神で初体験したマルチピッチ講習会を思い出した。この次のスラブ滝は、さらに急だったが、倒木を利用してなんとか乗り越す。視線を上げると、斜面の上の方まで広がるスラブが見える。その後、滝を2、3登ると第一スラブに入り、しばらく歩いて滝を乗り越えると、第二スラブだ。第二スラブの序盤は傾斜がきついので、中腹まで左岸側の草付きを巻きながら登る。泥が着いた岩に乗ると滑るので、草を掴んで慎重に進む。巻道から戻ると、今度は右岸側に渡り、3段15m滝を登る。終盤、滝を2、3登ると徐々に水量は減り、藪っぽくなっていく。登山道へエスケープするには、濃い笹藪に突っ込まなければならない。その前に休憩していると、どこで追い越したのか、先行していた名古屋の3人パーティーが登って来た。ルートを聞かれたので、あっちと右側を指差して見送る。

そこから先は、根曲竹とクマ笹が煩い藪をラッセル祭り。先行する名古屋のパーティーの大ブーイングが聞こえてくる。私も慣れない藪に苦戦しつつ、必死でリーダーを追いかける。しばらくして名古屋のパーティーが停滞したので、入れ替わり、今度はこっちの3人が先行してラッセルする。名古屋のパーティーもラッセル泥棒で付いてくる。藪は濃く傾斜もきつい。目指す稜線は見えていても、なかなか前に進めない。1時間ほど漕ぎ続けて、やっと登山道に出ることができた。見渡すと、憧れの平標山は霧の中。晴天なら行きたかったが、激しい藪漕ぎの疲れもあり、そのまま下山路を歩いた。

山頂まで行かなくても、さすが花の百名山。西ゼンの沢沿いも、下山の登山道も、ニッコウキスゲ、ハクサンコザクラ、ハクサンフウロ等々、かわいいお花達に彩られていた。見晴らしのいい登山道は、廻行して来た西ゼンの沢を下山中も眺め楽しませてくれた。東ゼンにも行ってみたいな、そう思った。





西ゼンと東ゼンの出会い



スラブ滝



スラブ滝 上から目線で



3段 10m 滝



第二スラブ 中腹あたり



第二スラブ 上から目線で



3段 15m 滝は右岸から



下山途中の登山道から見える、西ゼン

